

びざん

3
月号

村田部会長 おすすめの食べ方

- 薄くスライスして湯通し、明太マヨネーズで和えたもの。
- すりおろして塩コショウで味付け、片栗粉を混ぜた生地を、味付け海苔にのせ、油で揚げるとおつまみに最適。



JA NEWS 2021 NO.622

表紙写真は東部営農経済センター川内れんこん部会村田稔部会長。現在、部会では、露地レンコンを出荷している。肥沃な土地と吉野川の清流のもと生産者25戸で33畝を栽培しており、「蓮心（はずこころ）」と「つらん」名でお馴染み。露地出荷が行われない6月、7月はハウスれんこんの出荷に切り替わる。

蓮根の収穫は、土質に合わせて2つの方法に分かれる。一つは、水を張った水田でポンプの水圧により掘り出す方法。もう一つは、水田を乾かした状態で表面のみをパワーショベルで掘り起こした後熊手を使用し、レンコンを傷つけないよう、地道に掘り取る方法がある。村田部会長は熊手を使用し手掘りで収穫を行っている。

この方法は収穫時、労力と地道な作業が必要だが、一つ一つ手掘りすることにより、表面にスレができにくく肌が白く高品質なレンコンが出荷できるそう。

部会では、近年課題となつている腐敗病の対策として2年前から「ふすま」を使った、土壌還元消毒の試験に取り組んでいる。また、腐敗病に対して強い品種の栽培を行う等、対策にも力を入れている。

村田部会長は「部会では露地とハウスを組み合わせて周年栽培がされており、1年中出荷体制が整っていることが最大の強み。季節を通じて、いろいろな料理で味わっていただきたい。」と話された。

今年は420トンの出荷、目標販売金額は2億円を予定している。

徳島県花き展示品評会

1月23日、24日にイオンモール徳島にて第38回徳島県花き展示品評会が開かれました。今年にはコロナウイルス感染拡大防止の観点から表彰式は中止となりましたが、受賞された生産者の方々の花き類は下記のとおりです。



徳島県生花商組合組合長賞
長尾佳昭さん
【ガーベラ】パワーボール



株式会社姫路生花卸売市場社長賞
長江景子さん【枝物】黄金ヒバ



生産局長賞 近藤洋右さん
【シンビジウム(切花)】レッドハート

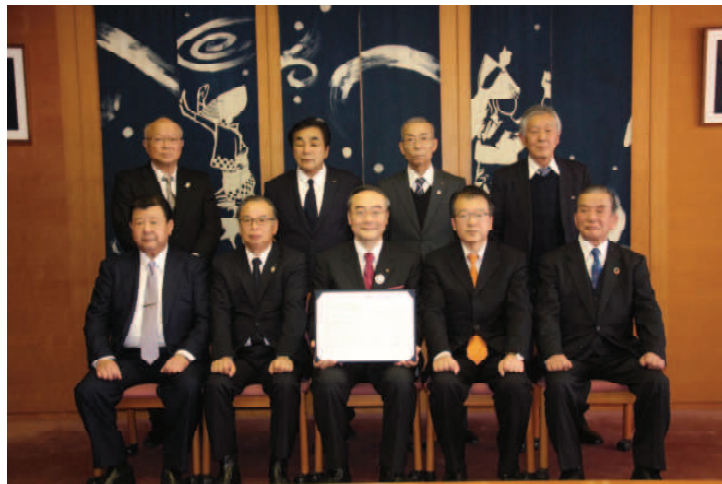


中国四国農政局長賞
JA徳島市百合部会
【オリエンタルユリ】シベリア



株式会社TKなにわ花いちば社長賞
騎馬 均さん
【シンビジウム(切花)】タルト

県内の花き生産組織などから、切り花81点、枝葉物20点、鉢物19点の計120点が出品されました。



直売所連携で7JAが協定締結 農産物消費拡大を目指す 7JA、県、中国四国農政局が連携協定

四国農政局の塩屋俊一局長は、1月21日に県庁にて「徳島県における地場農産物等の需要拡大に向けた協定書」に調印を行いました。

協定は、新型コロナウイルスの影響で、首都圏や京阪神の消費が落ち込んでいる中、各JAで栽培が盛んな作物を相互で販売し、地産地消の強化を図ることを目的に、物流網の構築や、農産物の直売所連携の取り組みを進め、相互に直売所で販売する体制を確立していきます。

今後、効率的な集荷システムの構築を検討していく中、行政からは他県事例の紹介や、制度面での支援を受ける予定。松田組合長は「今後、地域農産物の生産・流通・消費の促進がこれまで以上に重要となってくる。地場農産物の需要や供給の拡大に向けて、産地直売所を核とした広域連携の取り組みを積極的に推進していきたい。」と話しました。

7JA(JA徳島市、JA東くしま、JA板野郡、JA名西郡、JA大津松茂、JA徳島北、JA里浦)の組合長と、飯泉嘉門知事、中国

新ブランド「あわつちやまめ」 販売に向け枝豆栽培講習会



J A徳島市では、今年から新しく茶豆風味の枝豆を「あわつちやまめ」というブランド名で販売します。

北部宮農経済センターは1月28日、29日両日、枝豆統一部会生産者を対象に計4回の栽培講習会を行いました。

講習会は宮農指導員や農業支援センターより、土壌に根粒菌が着生しやすい圃場にするための土づくり、トンネル栽培における換気の注意点、病害虫対策等の説明があり、参加した生産者は熱心にメモを取るなどして知識を深めています。

また、関係機関にリモートでの参加を仰ぎ、市場担当者とは選別格差の是正やコロナ禍のPRとして産地が取り組めること等を共有。種苗メーカーからは、品種特性に合わせた施肥や管理の情報提供があり、新たなブランド確立に対する意識が高まりました。

枝豆統一部会 前川久部会長は「コロナ禍で、試食による販促ができないことが最大の難点。厳しいスタートが予想されるが、産地独自でPRの仕方を工夫して消費者に味を覚えてもらいたい。」と話されました。



▲写真＝県外の種苗会社担当者よりオンラインで説明を受ける部会員

東部センター、甘藷、カリフラワー、レンコン 出荷順調



写真は、2月3日、東部宮農経済センターの集荷場にて職員が検品作業を行っている様子です。

12月、1月のピーク時は、集荷場の敷地に収まらない状態だそうですが、当日は、出荷された、甘藷、カリフラワー、レンコンの箱が所狭しと並んでいました。2月中は、1日あたり平均4000ケースの甘藷、800〜1000ケースのカリフラワー、200ケースのレンコンが出荷されています。



▲レンコンを検品する小谷職員

ももいちご部会

優良農村集団知事表彰を受賞



佐那河内ももいちご部会は、今年度、徳島県優良農村集団知事賞を受賞し、1月29日に県庁にて飯泉嘉門知事より表彰を受けました。この賞は、集団の過半数が高齢者（60歳以上）であり、生涯現役を目指し、農村地域において積極的に農業生産活動や地域社会活動に取り組んでいる集団に贈られます。

部会員の平均年齢は68歳です。「ヤ〜ももいちご」のブランドを掲げながら、懸命に栽培技術の向上、ならびに地域の発展に部会をあげて取り組む姿勢と、その様々な活動が生産振興と、地域経済の向上や発展に貢献したことが評価されました。

受賞を受け、栗坂政史部会長は、「今後も栽培技術向上に邁進し、地域の活性化を図りながら魅力ある農業の実現に向け取り組んでいきたい。」と話されました。



連載 vol.7 “ほなけんがんばるんじょ”

「高設栽培への切り替え、新たな挑戦。」
新居延 智香子さん（多家良）



2020年を振り返り子どもたちはまだ小学生。昨年はコロナ禍で休校の時期もあったが、子どもたちの時間を大切にしながら仕事に取り組めた。

よく圃場に遊びに来る長女（8歳）は大根をひき抜いた拍子に尻もちをつくのが楽しくて、繰り返し遊んでいたりと、土に触れあうことが大好き。子どもたちの成長と共に徐々に仕事のウエイトを増やしていきたい。

また昨年は、土地が水害を受けやすいことも見越して、すべてのハウスを土耕から高設栽培に切り替えた。今年の収穫時には、身体的に楽になった上、作業効率も上がった。また、いちごの実が比較的大きく、形もきれいなものが出荷できたと思う。

今年の抱負は？シーズンの最後に、うどんこ病などの被害を受けやすくなるが、今年はしっかりと対策を行い、最後まで高品質なものを出荷したいと義母と話している。

また、品質の向上、さらに等級の良いものを出荷できるように努めたい。就農して2年。8年前に夫の実家で長年いちごの栽培をしている義祖母と義母と同居を始めた。3年ほど前に義祖母が高齢となり、義母が一人で作業をしているため手伝いはじめた。

女性だけの力仕事はハードであるが、義母の背中を見て、農業に従事することへの抵抗はほとんどなかった。また、子どもたちがいちごが大好きだったのも就農のきっかけ。



▶写真は義母のサダ子さん

現在は義母に農業や灌水などの管理について教えてもらいながら、一緒に作業する。

長女は義母のことを「いちごのおばあちゃん」と呼ぶ。また、智香子さんが収穫したいちごでも「おばあちゃんのいちご」と呼ぶ。いつか、自分の作ったいちごを「お母さんのいちご」と娘に呼んでもらいたい。

達磨キウイフルーツ出荷



12月中旬より、果樹選果場ではブランドキウイの「達磨(だるま)キウイフルーツ」の出荷が始まっています。

「達磨キウイフルーツ」は主に台湾、香港に市場を通じて輸出されています。

1個あたり175gを超える大ぶりの果実を1玉ずつ丁寧に包装し、化粧箱に8玉入りで販売されます。

中国・台湾圏では数字の「8」の数字は財をもたらし縁起の良い数字とされており、旧正月の贈答用として人気が高いよう。

出荷は3月まで続き、1600kgの出荷を予定しており、大窪脩斗職員は「達磨キウイフルーツは管内の生産量の2%という僅かな量。手間暇かけて出来る商品なので、達磨キウイフルーツをきっかけに国内外で、JA徳島市産キウイフルーツの認知を広められるよう、今年も高品質な出荷に努めていきたい。」と話しました。

◀写真は佐那河内支所キウイフルーツ部会 東野弘之部会長。達磨キウイフルーツを販売する佐那河内ふる里物産直売所にて



佐那河内村

農林産物品評会表彰式



佐那河内村農業振興センターにて、農林産物品評会の表彰式が行われました。

今年度は第21回佐那河内村ふれあいまつりの開催中止を受け、すでに終わっている審査の表彰のみとなりました。

ハウスすだち立木審査

最優秀 佐々木和男さん
優秀 松本和一さん
優秀 森下嘉文さん

露地すだち果実審査

最優秀 大仲香織さん
優秀 青木勝茂さん
優秀 西川和弘さん
優秀 森本貞夫さん
優秀 北山勝敏さん

キウイ立木審査

最優秀 渉賢治さん
優秀 谷昭さん
優秀 東野弘之さん



写真は
【右】佐々木和男さん、
【左上】大仲香織さん、
【左下】渉賢治さん

ふるさと納税返礼品として、さくらもいちご、キウイフルーツ、甘藷を発送



果樹選果場では、ふるさと納税の返礼品用のさくらもいちご、キウイフルーツの出荷を行っています。寄付者への発送作業は村より委託を受けている一般財団法人さなごうちが行っています。

今年度、果樹選果場には、さくらもいちごが化粧箱300箱、パック詰め4000パック、また、キウイフルーツは、143箱の予約がありました。

さくらもいちごの発送は3月初旬まで続く予定。キウイフルーツはすでに募集は締め切れ1月中旬で発送作業が完了しました。

村の青果物の返礼品は他にみかんも人気があり、主に首都圏や関西都市部の寄付者が多いそうです。

一般財団法人さなごうちふるさと納税担当岩田愛さんは「ふるさと納税を一つの入り口として、全国の方々に村の特産品を知ってほしい。年々、返礼品も多様化している中、他の返礼品に負けないように、他県の商品もリサーチしつつ、地元の生産物や加工品などの開発に尽力し、返礼品の幅を広げることが課題。」と話されました。



今年度、直売所から発送している甘藷の予約は、全国から213件の納税希望があり発送をしました。



ベルモニー葬祭と百合の取引がスタート



JA徳島市はベルモニー葬祭と百合の取引を開始しました。コロナウイルス感染拡大により、花卉の需要が落ち込む中、かねてより代理店として結びつきの深かった、ベルモニー葬祭へ葬儀用として百合の直接販売契約が結ばれました。

主に取り扱いが行われている品種は「シベリア」、「セララ」。現在、週2〜3回定期的に中央集出荷場から納品しています。

南部営農経済センター吉田センター長は、「花卉生産者の所得確保に向け、第一歩を踏み出し、販路拡大につながるきっかけになってくれることを期待したい。」と話しました。

◀ベルモニーに百合の納品を行う⑧工藤職員



みなさん、こんにちは。徳島往診クリニックの吉田です。先月号では、「新型コロナウイルスのワクチン接種が、2月下旬に医療従事者から始まり、その後3月～4月にかけて、65歳以上の高齢者に優先接種がされる予定です。」とお伝えしましたが、2月5日時点での最新情報を改めてお伝えします。厚生労働省は、2月5日に新型コロナウイルスに感染し抗体を持っている人の割合について東京都で0.91%と発表しました。昨年6月の調査では0.10%でしたので僅かながら増えてはいますが、人口の60%から70%が免疫を持てば感染の収束につながる集団免疫が得られるとの研究の観点から見ますと依然遠く及ばない状況です。集団免疫獲得を目指すのであれば、多くの方がワクチンの接種をする必要があると言えます。

そこで政府は2月2日の記者会見で「有効性・安全性を確認した上で、2月中旬に接種をスタートしたい」と述べ、それまで「2月下旬」としてきた接種開始を前倒しする考えを示しました。医療従事者＝約400万人は2月中旬にスタートし、高齢者＝約3600万人は4月の開始、続いて基礎疾患のある人＝約820万人、高齢者施設などの従事者＝約200万人に、一般人へはさらにその後の順に接種を進める見通しです。ただし、新型コロナウイルスワクチンの需給は世界的に逼迫しており、欧州では供給に遅れも出ています。接種スケジュールは供給に左右され、現時点ではまだ不透明です。

ちなみに、「高齢者」とは令和3年度中に65歳に達する、昭和32年4月1日以前に生まれた方が相当し、「高齢者以外で基礎疾患のある人」とは以下のような方を指します。

I. 以下の病気や状態の方で、通院/入院している方

1. 慢性の呼吸器の病気
2. 慢性の心臓病(高血圧を含む)
3. 慢性の腎臓病
4. 慢性の肝臓病(ただし、脂肪肝や慢性肝炎を除く。)
5. インスリンや飲み薬で治療中の糖尿病又は他の病気を併発している糖尿病
6. 血液の病気(ただし、鉄欠乏性貧血を除く。)
7. 免疫の機能が低下する病気(治療中の悪性腫瘍を含む。)



8. ステロイドなど、免疫の機能を低下させる治療を受けている
9. 免疫の異常に伴う神経疾患や神経筋疾患
10. 神経疾患や神経筋疾患が原因で身体の機能が衰えた状態(呼吸障害等)
11. 染色体異常
12. 重症心身障害(重度の肢体不自由と重度の知的障害とが重複した状態)
13. 睡眠時無呼吸症候群

II. 基準(BMI30以上)を満たす肥満の方

*BMI30の目安:身長170cmで体重約87kg、身長160cmで体重約77kg。

接種が受けられる場所は、原則として住民票所在地の市町村(住所地)の医療機関や接種会場とされており、厚労省がインターネット上にワクチンを受けられることができる医療機関や接種会場を探すための接種総合案内サイトを設置する予定です。また、接種開始時期に先立って市町村から「接種券」と「新型コロナワクチン接種のお知らせ」が届くようになっているとのことですので、郵便物に気をつけておきましょう。



その使い方、合っていますか？

●●●●「農薬ラベルは必ず確認しましょう。」



農薬が適正に使用されないと、食品衛生法の残留農薬値を超えて農薬が残留する可能性があります。その場合、出荷した農作物は回収や廃棄の対象となり農産物全体の風評被害にもつながります。

残留基準値超過の原因は？

農薬の残留基準値超過を防ぐためには、どのような原因で、超過が起こるのを知っておくことが重要です。近年の残留基準値超過の主な原因は、以下のとおりです。

- 使用する農薬に対する慣れから、ラベル(使用時期、希釈倍数等)を確認しなかった。
- 名前や形状が類似した農作物に適用があることから、使用したい作物にも適用があると思い込み、誤って使用した。
- 近隣のほ場で栽培されている作物に使用した農薬が飛散した。
- 防除器具の洗浄が不十分であったため、別の農作物に使用した農薬が混入した。

- 適用作物を確認
- 使用時期を確認
- 使用量・希釈倍数を確認
- 使用回数を確認



ラベルの確認不足や思い込みによって誤って使用した事例が多いんだね。「いつも使ってるから自分は大丈夫!」と想着いても、実は適用農作物、使用量・希釈倍数、使用時期、使用回数等を間違えて使っていることも。使い慣れた農薬でも使用前には、必ずラベルを確認しよう!



農林水産省が、農薬を取り扱う上での注意すべき事項についてホームページ上で公表しています。農薬危害防止運動の実施要綱をはじめ、適正使用に関する通知文書など、より詳しい情報を入手することができます。

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/

農薬の適正使用



お知らせ

理事会だより(令和3年1月29日)

協議事項

- (1) 規程類の制定、廃止および一部変更について
- (2) 徳島県農業信用基金協会への出資金の増額について
- (3) 出資口数の一部減口について
- (4) 反社会的勢力との取引排除にかかる対応状況について
- (5) 組合と理事の利益相反取引について
- (6) 不稼働・遊休資産の処分について
- (7) 佐那河内支所修繕工事について
- (8) LED照明への取替工事について
- (9) 旧嵯峨出張所の譲渡について
- (10) その他

報告事項

- (1) 令和2年度のみり監査法人による期中監査Ⅱの実施について
- (2) 苦情等の受付対応実績報告について
- (3) 事務リスク管理規程に基づく事務ミス等の発生状況・自主検査の結果および改善状況について
- (4) 債権回収について
- (5) 第3四半期の余裕金運用状況報告について
- (6) 第4四半期の余裕金運用方針について
- (7) 入札結果報告について
- (8) 再発防止策の取り組み状況について
- (9) その他

島田清弁護士無料法律相談

通常通り開催いたしますが新型コロナウイルスの感染状況によりましては開催できない場合もございます。

日時 第4土曜日 9:00～12:00

金融共済部へ事前に予約が必要

申込先 ☎ 088-622-8003

場所 本所1階金融相談室

賀上延啓税理士事務所の無料税務相談

下記の通り開催予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況によりましては、開催できない場合がございますのでご了承ください。

日時 3月2日(火)、23日(火)、30日(火) 9:30～15:00

申込先 総務部へ事前に予約が必要

☎ 088-622-6335

場所 本所1階ローンセンター